



出会いふれ合い 語って唄った お座敷列車 みちのくの旅



会津のシンボル鶴ヶ城

総武本線複線化の願いと、参加者相互の親
ぼくを目的に企画した、特別臨時列車「町村民
号」の旅は、横芝町をはじめ、松尾町、蓮沼
村の3町村の共催で、11月25日から26日にか
けて、1泊2日の日程で行われました。
2回目の今回は、趣向を変えて、国鉄のユ
ニークな「お座敷列車」で、東山温泉をメー
ンに晩秋のみちのくの旅を存分に味わって
いただきました。

241名参加者のほとんどの
方が初対面の「お座敷列車」は、
ヘッドライトをこごころと照ら
しながら、朝もやをつけてプラ
ットホームに……。その勇姿
は、明るいブルーの車体に純白
の2線をあしらった6両編成。
車内に足を踏み入ると、青畳
の上に、座卓や座椅子がセット
され、らん間・床の間・格子戸
付きの純和風調造りに思わず驚
歎の声があがったほど。

朝もやの中、乗車する横芝の皆さん



車内は唄って踊って、てんやわんやの
にぎやかさ……



駅長さんも大ギョー山ノ!

そのホテル並みの雰囲気の中
で、早速に食べて飲んで歓談に
と、車内はたちまちなごやかム
ード。まずは楽しい旅の幕開け
となりましたが、列車が進行す
るにつれて、カラオケや踊りも
どんどん飛び出して、さながら
お祭りムードと化しました。

▲あいさつする
松尾町長



▲孫のおみやげ?たくさん買ったねエー

宿は情緒豊かな東山温泉
3か町村241名の一室に
会する大宴会場はさすがに
圧巻、すでに準備万端整い、
みなさんをお待ちかねノ主
催者のあいさつに始まり、
記念品の贈呈や鏡開きなど
が相ついで行われ、あとは
飲んで歌っての大宴会、お
もしろおかしなくし芸が
ポンポンと飛び出し、会場
は笑いと拍手のるつぽと化
し、時の経つのも忘れるほ
どでした。

心に残る旅

参加者の声・声



越川千代
(57歳・古川)

生涯の一頁



行木 茂
(69歳・鳥喰上)

一度は乗ってみたいと思っ
ていたお座敷列車、幸い前夜の雨
も上がり旅行日和。皆顔なじみ
で和気あいあい、座卓の上は花
ざかりで歌に踊りにこの列車な
らでは味わえぬ雰囲気……。
澄みきった青空とそびえ立つ
雪の磐梯山、雄大に連なる冬の
山々、猪苗代湖の水面は銀の鱗
のごとく美しく……。最後に星
影のワルツを歌って別れた心に
残る楽しい列車の旅でした。